

Newsletter

映画英語教育学会 九州支部

The Kyushu Chapter of
the Association for Teaching English
through Movies (ATEM)

第 2 号

2005(平成 17)年 4 月 1 日

映画英語教育学会 九州支部事務局 発行

〒803-0835 福岡県北九州市小倉北区井堀 1-3-5

西南女学院大学 人文学部 八尋春海 研究室

TEL/FAX: 093-583-5720

E-mail: kyushu_office@atem.org

編集: 與古光 宏・多賀亜紀・中島千春

Contents

page 1 新・九州支部長挨拶

page 3 支部大会のご案内・支部大会発表者募集・新役員紹介

page 2 STEM 大会のご案内・映画のトリビア・全国大会のご案内

page 4 編集後記・映画ショッキング

新・九州支部長挨拶

映画英語教育学会 九州支部
支部長 高瀬 文広 (福岡医療短期大学)

2005 年 1 月 1 日付けで、正式に九州支部長を拝命しました。就任後初めてのニューズレターですので、一言ご挨拶申し上げます。先ずは、前任者の八尋春海先生に御礼を申し上げたいと存じます。八尋先生には九州支部の初代支部長として、当支部の礎をきちんと築いて頂きました。誠に有り難うございました。今日、この学会の支部の中で一番活気があり、他の支部が羨むほどに会員同士の仲が良いのは、全て八尋先生の御陰と感謝申し上げます。また、他の支部役員の方々や、支部会員の方々にも御礼を申し上げます。支部大会だけでなく、年 2 回開かれる懇親会にも、いつも 20 名を超える参加者があり、会員の交流が充分にできるのも、皆様のご協力の賜物であります。本当に有り難うございます。

今回、八尋先生に替わり第 2 代目の支部長に就任致しましたが、今後も以前同様、支部運営に関してご理解とご協力を賜りたいと存じます。支部運営に関しましては、八尋前支部長と同じ路線で進めていきたいと考えております。現に、八尋先生は支部長から事務局長として、今後も実務的な部分でのお仕事をされますし、中谷副支部長を始め、支部役員の方々の顔ぶれにも、それほど変化はありません。ただし、メンバーの入れ替わりは多くあ

りませんが、九州支部の発展に伴い、支部組織は大きく変えました。

役職の面では、なるべく多くの支部会員に支部運営に従事し、支部の活動に興味を持って頂くために、役職を正副の 2 名とし、新しい役職を創設しました。まず、副支部長を 2 名に増員し、中谷安男先生の他に、新たに ATEM 理事の秋好礼子先生を任命しました。また、副事務局長 (今田桂子先生)、HP 編集長 (横溝彰彦先生) と副編集長 (鶴田知嘉香先生)、そしてニューズレター編集長 (與古光 宏先生) と副編集長 (中島千春先生 & 多賀亜紀先生) を新設しました。その他、運営委員には、新たに福翔高等学校の阿矢部麻里先生に入ってもらいました。このように、新たな役職を創設することにより、ホームページやニューズレター等による広報活動の充実や、支部活動の発展につながるものと期待しております。

今後更なる支部発展の為に、他学会支部と共同主催の『コミュニケーション・フェスティバル (仮称)』を、来年辺りに開催しようとして計画中ですし、支部資金源となる執筆活動も、現在以上に行って参りたいと考えております。今後も、STEM 大会参加や支部大会を始め、九州支部が企画する活動への、皆様のご参加をお待ち申し上げます。

■2005年度STEM大会のご案内■

AEM の姉妹学会である、映像英語教育学会 (STEM)の第9回全国大会が、本年も開催されます。昨年は、九州支部から秋好先生と津田先生が海外発表をされ、お二人を含む総勢6名が、STEM大会に参加いたしました。本年は、関西支部から Craig Smith 先生と倉田誠先生が、研究発表されます。また、STEM大会への九州からの参加者は、現在のところ10名の参加希望が出ております。会員のご家族の参加も可能ですので、興味がおありの方は積極的に申し込み下さい。

○映像英語教育学会(STEM) 第9回全国大会

- 日時: 2005年4月30日(土)
(「毎年4月の最終土曜日に設定」)
- 場所: Gangneung city, Gangwon province
(江原)
開催大学は Kwandong University
(関東大学校)です。
- 宿泊: 関東大学校(上記)ゲストハウス
(一泊5,000円~6,000円)
※要予約
(高瀬が一括して申し込みます)
- 必要費用: 航空運賃、宿泊費等
(食事代と下記のツアー代金は、STEM負担予定)

今回は、『冬のソナタ』のロケ地巡り(4月29日<金>・午後)も計画されています。ソウルから現地まで、STEMがバス等で連れて行ってくれます。バスで約3時間かかりますので、帰りの時刻等にご注意下さい。ほとんどの方が、日曜日に帰国されるようです。基本的には、航空運賃と宿泊代を負担すれば、他はほとんどSTEMが払ってくれます。

現地へは、大会の前日4月29日(金・祝)の正午前ぐらいにソウルに着く方が良いでしょう。バスで移動し、冬ソナの観光もします。

(文責: 支部長 高瀬 文広)

♪♪映画のトリビア vol. 02♪♪ ~逆立ちしてもちつき~

映画『ロード・オブ・ザ・リング』で、主人公達は雄大な自然の中を旅していきます。それはニュージーランドで撮影されたものだそうで、その美しさには目を奪われます。劇中に数度登場する月に対しても、往年の天文ファンとしては目を奪われます。

私は大学の4年間、天文部に所属していました。学園祭では手作りのプラネタリウムの解説員を4年間務めましたので、北斗七星や白鳥座、サソリ座など主だった星座は一目でわかります。そんな私にとっての憧れの星座の一つが南十字です。この星は、日本からはその全景が見られません。いつかはニュージーランドやオーストラリアを旅して見たい、南半球を代表する星座です。日本で見慣れている星座でも、南半球では趣が違います。例えばオリオン座。南の空で棍棒を右手にした勇壮な狩人の姿がおなじみですが、南半球では北の空に逆さまの状態で見ることができます。月についても同じことが言えます。古来、人は月の表面に現れる模様をうさぎのもちつきや、かきのハサミなどに見立てていましたが、南半球ではこの模様が逆さまになるのです。

北半球で見る月のうさぎの模様は、東から登る頃は直立し、西に行くにつれ、時計回りに回転し、頭を下げてしまいます。そのことを頭に入れていると、映画の月がどんな時間帯に撮影されたかも推測できると思います。

(浦田 毅彦)

■第11回全国大会のご案内■

第11回全国大会が、2005年10月1日(土)に、神奈川県相模原市文京2-1-1にて開催されます。大会テーマは、「異文化指導教材としての映画」です。今のところ、基調講演の候補者として、『日本人の英語』の著者であるマーク・ピーターセン氏、『アメリカ映画の暗号を読み解く』シリーズや『WASP』の著者であり、翻訳者としても名高い越智道雄氏、英語教育界の重鎮である吉田研作氏、並びに松坂(マツサカ)ヒロシ氏と、そうそうたる人物の名が挙がっています。この中からお二人に、基調講演をいただく予定です。全国レベルの大会で発表したい、著名な先生の英語と日本語による生の講演を聴きたい、あるいはまた、他支部の会員との交流を深めたいといった希望をお持ちの方は、是非参加されることをお勧めいたします。(文責: 多賀 亜紀)

第7回支部大会のご案内

3月5日に行われたATEM九州支部・運営委員会にて、第7回九州支部大会の開催要領が下記のように決定されました：

- (1) 日時：
2005年9月17日(土) 13:00～
- (2) 会場：
西南女学院大学
(福岡県北九州市小倉北区井堀 1-3-5)
- (3) プログラム：
・支部総会
・映画オタクコンテスト
・映画『サウンド・オブ・ミュージック』
ソングメドレー (西南女学院大学教授
デニス・ウールブライト氏)
・研究発表
・業者発表 (リラクゼーション効果のある、
BOSE社製品のPR)
・懇親会
会 場：『双幸』
(福岡県北九州市小倉北区井堀 3-6-52)
★懇親会参加費：4,000円

今年が目玉は何と云っても、デニス・ウールブライト氏によるソングメドレーでしょう。「都はるみ」と一緒にレッスンを受けておられたウールブライト氏は、あの非情の鐘で有名なNHK『のだ自慢』で、外国人として、初めてのグランプリを受賞されたほどの実力を持っておられます。

「昂」「マイウェイ」を十八番とされる氏が、今回は映画「サウンド・オブ・ミュージック」から、選りすぐりの名曲を披露していただきます。英語は勿論、日本語も堪能な氏の美声を聴きながら、映画で使用される歌のパワーというものを改めて感じていただけるのではないかと思います。

また、業者発表では、通称「ボーズ」のBOSE社による“BOSE VIS”の視聴体験を予定しています。高い音響・音質システムをもった“BOSE VIS (Virtual Imaging System)”は、リラクゼーション効果を高めるために医療機関でも使用されているもので、自宅にしながら、コンサートホールにいるかのような体験ができます。家の中のどこで聞いても音響・音質が全く変わらない装置です。音にこだわりのある方は、特に興味をもたれることと思います。

皆様、お誘いあわせの上、是非ご参加ください。
(文責：多賀 亜紀)

第7回支部大会発表者の募集

本大会での研究発表者を募集します。
下記の要領で応募ください：

◆発表申し込み締め切り：

2005年8月20日(土)

◆申し込み先：

・E-mailの場合は、
映画英語教育学会 九州支部事務局
事務局長 八尋 春海
kyushu_office@atem.org

・郵送またはFAXの場合は、
西南女学院大学 人文学部 八尋 春海
〒803-0835 北九州市小倉北区井堀 1-3-5
電話&FAX：093-583-5720

◆記載事項：

1. 発表者名 (ふりがな付き)・所属先名・職名
2. 発表者連絡先 (E-mail アドレスを含む)
3. 発表タイトル
4. 発表概要 400字～800字
5. 使用機器の有無

*発表会場にはビデオ機器を準備しております。
*発表時間は質疑を含めて30分間です。

ATEM九州支部 新役員紹介

支部長	高瀬 文広	(福岡医療短期大学)
副支部長	秋好 礼子	(福岡大学)
"	中谷 安男	(中村学園大学)
事務局長	八尋 春海	(西南女学院大学)
副事務局長	今田 桂子	(久留米大学<非>)
HP 編集長	横溝 彰彦	(純心女子高等学校)
HP 副編集長	鶴田 知嘉香	(福岡女子高等学校<非>)
NL 編集長	與古光 宏	(九州産業大学<非>)
NL 副編集長	多賀 亜紀	(西南学院大学<非>)
"	中島 千春	(西南学院大学)

(次ページへ続く)

(前ページからの続き)

運営委員	阿矢部 麻里 (福翔高等学校)
"	浦田 毅彦 (長丘中学校)
"	大木 正明 (大分工業高等専門学校)
"	熊抱 ゆかり (福岡大学)
"	砂川 典子 (北九州市立大学<非>)
"	高木 仁美 (福岡大学<非>)
"	八尋 真由実 (北九州市立大学<非>)
会計監査	時枝 千富美 (佐賀大学<非>)
"	宮内 妃奈 (久留米大学<非>)

* <非>…非常勤

編集後記

昨年9月に創刊されましたこのニューズレターの編集長を務めます、與古光(よこみつ)です。編集長という肩書きを頂いていますが、副編集長の中島先生、多賀先生にはいつもの的確な助言を頂いて、大変心強く思っております。また、新支部長の高瀬先生、新事務局長の八尋先生、そして今回原稿を執筆して頂いた浦田先生、今田先生にも、この場をお借りしてご協力をご感謝申し上げます(※なお、出来るだけ多くの会員の方に参加して頂くため、映画ショッキングは前回予定していた高瀬先生の代わりに今田先生にお願いしました)。この5名で、メールの「全員に返信」機能をフル活用しながら、情報の共有や提案などを活発に行っています。私一人ではカバーし切れない部分を、皆さんに補強して頂きながら、ニューズレターがどんどん形になって行く過程を目の当たりにするのは、編集長としての大きな愉しみです。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。また、ニューズレターに関する、皆さんからのご意見・ご感想等も、ぜひお寄せください。お待ちしております(宛先: yok31783@hotmail.com)。

ところで、私がニューズレターの編集作業をする際に、必ず聴くCDがあります。それは、『ワンダーランド駅で』(1998)という映画のサントラ盤(小説書き下ろし版が、角川文庫より発売中)。初秋のアメリカ・マサチューセッツ州ボストンを舞台にしたストーリーの全篇に亘って、ボサノバの美しいメロディが溢れる、編集長一押し(!)の知られざる佳作です。ぜひ、皆さんもビデオ屋さんで探して、ご覧になって下さい。

(文責: 與古光 宏)

◆◆映画ショッキング Vol. 02◆◆ ～映画と私～

学生時代は考え込むような映画に惹かれました。映画館の料金は学生には高額で“あはは”と笑って終わる映画に少ないお小遣いを費やす気にならなかったのも理由のひとつです。その意味で50年代後半から60年代にかけてのフランスのヌーヴェルバーグものは素敵でした。ゴダールの『勝手にしやがれ』(59)は主演のジャン＝ポール・ベルモンドが気障で格好良くて本当に素敵でした。意味深な詩のような台詞、アンハッピーエンド、パリの街角、退廃的な雰囲気などに田舎の女学生は魅せられたわけですね(後にアメリカンニューシネマに影響する映画なのですがそれはまた別のお話)。

ところがその後、私はアメリカでハリウッド大好きになってしまうのです。あ～ら不思議。よく見れば軽蔑(?)していたはずのアメリカ映画は、巨額の資金をかけている割にはリアリティーもあり、生活に密着した楽しい娯楽的なものでした。ハリソンやデンゼルもいるし。料金も安くて当時\$3.5位でした。もちろん、私の生活変化や年齢も作用しているのですが、今では考え込むことよりも楽しむために映画を観ます。ところが先日、10数年ぶりに「きつと退屈だろうなあ」と思いながら『勝手にしやがれ』を観ると…オーララ!(注:「アララ、驚いた!」の意味のフランス語)やはり、人間の本质は何年経っても変わらないのかもしれない…。好きな映画のタイプで自分が分かるかも? 次回のエッセイは大木先生にお願いします!

(今田 桂子)

